

第24回 ターゲットの魅力を引き出す仕事

今回のゲスト

0

アスコム編集長で、ヒットメーカー。黒川精一さんの仕事の楽しさは？

企画より「会うか会わないか」が先

どんなジャンルでも「著者の顔」が出ている本をつくる

「人生ではじめて著者をバカと呼んだ」。その理由

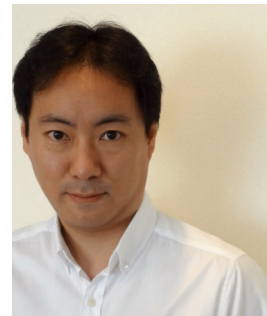
“人を知る”仕事の喜び

『残念な人の仕事の習慣』をはじめ、数々のヒット作を手がけておられる編集者の黒川精一さんですが、美崎さんの三作目『「結果を出す人」の仕事のすすめ方』を手がけたことがきっかけで、以後、3冊の本を担当されています。黒川さんがおっしゃるように「美崎さんの本を一番つくっている編集者」にヒットの裏側をうかがいました。

「人柄が見えてこない本は面白くないですね。1章分くらいを読んだ時点で人柄が見えてきた本の著者には、すぐにオファーします」という黒川さん。その著者とどんな本をつくるかよりも先に、その人と会うか会わないかだけを定めるそうです。企画を考えるのはアポイントが取れた後。「売れるかどうかわからない時点でも、売れそうだという感覚だけで行きます」。このフットワークがヒットを生み出すコツなのですね。美崎さんへのオファーも最初の本が出た10日後くらいだったそうです。

「デジタルガジェット本の著者」としての美崎さんの素質を見抜いたのも黒川さんでした。「他社の本を読んでいて、美崎さんが機能の説明などに長けていることはわかっていました。でも、機能の説明だけだったら、誰が書いても同じになってしまう。美崎さんの持っている“おいしいものが好き”“吉野家によく行く”などの人間味を出せたら面白いのではないか」。そこで行き着いたのが、本の中で脱線を繰り返すことでした。「読者から“美崎さんてサラリーマン金太郎のファンなんですね”という感想が届いた。読者の頭の中に残るのは、そういう脱線の部分だったりするんですね」。

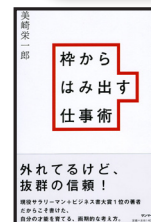
「好きな子がいたり、上司に不満があったり……普通の生活に投影できる本にしたい」。デジタルガジェットは無機質。でも使っているのは血の通った人間。解説書にノウハウだけでなく、もっと人間味を感じられるものがあっていいはずでは。『iPadバカ』というタイトルには、「無機質」と「人間味」という、とことん考え抜かれた末にできた組み合わせの妙があったのです。勉強になりました！



黒川さん担当書籍
美崎栄一郎さん最新刊
iPhone バカ
1800 アプリためした男のすごい活用術
<http://amzn.to/rO8iqU>



僕の本にB'zの歌詞を入れはじめたのは、黒川さんのアドバイスがきっかけでした。黒川さんには、『iPadバカ』に続き『iPhoneバカ』と、デジタル系の本を出すきっかけもプロデュースしていただきました。今回はその裏話を存分に語っていただいています。



リスナーへお知らせ！

仕事の楽しさを追求した1冊！
『萃からはみ出す仕事術』発売中

こちらをクリック！→ <http://amzn.to/dShb3l>

この番組へのご感想や、こんなゲストを呼んでほしい！
などのご要望を随時募集しています。こちらにご連絡ください。
a16.misaki@gmail.com

次回のゲストは・・・
創業60年、
老舗文房具店
「つばめや」社員
高木芳紀さんです。